

ニューヨーク市内から郊外へ

コロナ禍によるリモートワークの普及により、ニューヨークの市内から郊外に引っ越す人が増えている。ニューヨーク市を離れる人は、ニューヨーク州内に加え、ニュージャージー州、コネチカット州などトライステートエリアの移動が最も多いようだ。その主な理由は高額な住宅ローンや家賃によるものだとされている。以前からニューヨーク市に住んでいる人の収入の約半分が家賃に当てられていると言われてきたが、最近の調査では収入の約7割に達していることが分かった。また、治安面では、パンデミック前までは治安が向上し続け、安全な街だったが、経済の悪化やストレスなどの理由からか、犯罪が増加しており、最近のニューヨークの治安は決して良好とは言えない。ここ数十年では最も悪くなっていると感じる。市内のオフィスに行かなくてもいいのなら、安全で広くて安い郊外の人気が高まっている。

ニューヨークセンターに集う人たち

ニューヨークセンターに参拝に来られる人たちは、日本人、日系人が多数を占めているが、現地の教会、布教所、文化協会などを通して天理教を知り入信された人もいる。そして、アメリカ以外の外国でおいがかかり、その後ニューヨークに移住してきた人がおられる。現在センターに日参されている人は、香港でおいがかかり入信、現在ニューヨークに住んでいる。そのほかにもコロンビア、アルゼンチン、ブラジル、ペルーなどの中南米や台湾、韓国、ネパールなどアジアの国々で入信された人たちが参拝に来られている。

ニューヨークには、さまざまな国から人々が集まっているが、台湾や韓国出身の若い信者たちが留学や就職でニューヨークに住んでいる人も多いようだ。各拠点で丹精込められて育てられた若い人たちをどのようにして把握し、繋げていけるかが今後の課題でもある。各地の伝道庁や拠点と連絡を取りながら、そのような人たちにも参拝してもらえようしていきたいと思っている。

ニューイングランド講の誕生

一例としてコロンビア出身のアレハンドロ・ヒメネスさんを紹介したい。彼は若い頃コロンビアで入信、初代の熱心な信仰者だ。約20年前にアメリカに入国し、ニュージャージー州で働いていた。しかし、生活は苦しく落ち込む日々が続いた。ある時彼は、コロンビアを出发する時、所属の会長さんからいただいた手紙を思い出した。困った時にはここに連絡して、この手紙を見せなさいとのメッセージだ。そこには、ニューヨークセンターの連絡先が書いてあった。彼は英語がまだ全く話せなかったため、スペイン語で不安げにセンターに電話をした。たまたま電話を取ったセンターの職員はスペイン語が少し話せたので、話が通じ気持ちも和らいだ。その月からニューヨークセンターの月次祭に参拝し、センターの近くで仕事を見つけてニューヨークに引っ越してきた。その後、天理教語学院、海外部、天理大学、大教会勤めを経て現在ボストンに布教拠点を構

えている。天理大学でウクライナからの留学生と知り合い結婚、毎月の月次祭にはボストン近郊の信者が集っている。

今年5月末に「ニューイングランド講」の開所式が行われる。ボストンがあるマサチューセッツ州をはじめ、ニューハンプシャー州やメイン州の信者の集いの場として、ますます賑やかな拠点へと発展していくのが楽しみだ。

行きたくなるセンターへ

2024年6月には、アメリカ伝道庁創立90周年記念祭が執り行われる。ニューヨークを含むアメリカ東部地区から大勢の参拝者を迎える予定だ。記念祭へ向けての活動として家族、友人、コミュニティの人たちと信仰の喜びを分かち合うことが提唱されている。その方針を踏まえながら、3年後に迎える教祖140年祭へ向けて、ニューヨークセンターの活動方針を下記のように定めている。

- ・センターの充実「行きたくなるセンター」
- ・コミュニティへのひのきしん
- ・おちばがえり

具体的な目標としては次の通り。

- ・センター月次祭参拝者と初参拝者の増加
- ・毎月のにをいがけ活動とひのきしん活動
- ・おちばがえりの推進

現在、ニューヨークセンターの月次祭には、毎月約100名、多くて120名の参拝者が来られているが、より一層「行きたくなるセンター」になるよう内容を充実させて、3年後にはより多くの人々でおつとめを勤められるように教勢を伸ばすこと。そして、管内の教会、布教所、講社などの初参拝者を増やしていこうと話合っている。コミュニティへのひのきしんとしては、長い間続けてきた献血活動を再開し、現在、深刻な問題となっている血液不足に対応して、地域コミュニティへ貢献していきたいと思う。

ソウルファイヤー

今年6月末にアメリカ伝道庁の主催で天理教フェイスカンファレンス「SoulFire」がカリフォルニア州パームスプリングス市にて開催される。将来の天理教を担う若い世代を含む英語圏の教友が一堂に会して、英語で天理教の教えを学んだり、さまざまな社会問題を取り上げて話し合いが持たれる。コロナ禍の影響で開催が遅れたが、現在、若いスタッフが中心となり力を合わせて準備を進めている。この行事開催に向けて文化協会も資金面で協力することができた。文化協会の開設以来お世話になってきた感謝を込め、初めてのご恩返しのようなこととなった。それと同時に若い世代の人材育成の一助となることができありがたいことだ。その後、不思議にもニューヨークの経済の悪化にもかかわらず、文化協会の日本語クラスの生徒数が開設以来一番多い登録数を記録していることが分かり二重に喜びを感じている。このカンファレンスが成功して、若い世代の人々が勇み、教勢の伸展に繋がるように願っている。